

乳腺科

1. スタッフ（平成26年4月1日現在）

科 長（准教授） 穂積 康夫
 外来医長（助 教） 竹原めぐみ
 病棟医長（助 教） 森嶋 計（5 B）（兼）
 病院助教 上徳ひろみ
 病院助教 櫻木 雅子
 病院助教 宮崎千絵子
 大学院生 大澤 英之
 非常勤医員 水沼 洋文
 非常勤医員 吉澤 浩次
 非常勤医員 尾本 和
 シニアレジデント 3名

2. 診療科の特徴

大学附属病院としては、数少ない乳腺疾患の専門診療科として、県内はもとより茨城、埼玉、群馬からの患者も多く、北関東では有数の症例数である。放射線科、臨床検査医学の協力で、質の高い診断を行っている。手術では、希望に応じて、形成外科の協力の元、乳房再建術を行っている。

治療では、世界標準治療を行うことを原則とし、さらに新たな標準治療の確立のため、国内外の乳癌専門施設と共同で多くの臨床試験、治験を積極的に行っている。

・施設認定

日本乳癌学会認定施設

・専門医

日本乳癌学会乳腺専門医 穂積 康夫 他5名
 American Society of Clinical Oncology. Active member
 穂積 康夫

診療内容

乳腺：乳房温存手術、胸筋温存乳房切除、センチネルリンパ節生検、乳房再建、化学療法（術前術後療法・進行再発-AC、EC、FEC、TC、パクリタクセル、ドセタキセル、トラスツズマブ、ペルスツズマブ、ラパチニブ、T-DM1、ベバシツマブ、ビノレルビン、カペシタピン、TS-1、エリブリン）、内分泌療法（LH-RHアナログ、SEAMs、AIs、フルベストラント、MPA）

3. 診療実績・クリニカルインディケーター

1) 新患者数・再来患者数・紹介率

外来患者総数 13,321人
 新患者数 529人

再来患者数 12,792人

紹介率 70.2%

2) 入院患者数（病名別）

病 名	患者数
乳癌	287
その他の乳腺疾患	7
合 計	294

3-1) 手術症例病名別件数

病 名	人 数
乳房温存術・乳腺部分切除術	7
乳房温存術+センチネルリンパ節生検	120
乳房温存術+腋窩リンパ節郭清	16
乳房切除術	3
乳房切除術+センチネルリンパ節生検	65
乳房切除術+腋窩リンパ節郭清	16
その他の手術	10
合 計	237

3-2) 手術術式別件数・術後合併症件数

	症 例 数	合 併 症 件 数	再 手 術 症 例 数
乳房温存術	143	1	0
乳房切除術	84	0	0
その他の手術	10	1	0
合 計	237	1	0

4) 化学療法症例・数（入院）

乳癌 6件
 2500件（外来）

化学療法プロトコール

乳癌	
1	アドリアシン（ドキシソルビシン） エンドキサン（シクロフォスファミド）
2	ファルモルビシン（エピルビシン） エンドキサン（シクロフォスファミド）
3	タキソテール（ドセタキセル） エンドキサン（シクロフォスファミド）
4	ファルモルビシン（エピルビシン） エンドキサン（シクロフォスファミド） 5-FU（fluorouracil）
5	タキソテール（ドセタキセル）
6	週1タキソール（パクリタキセル）

7	メトソトレキセート エンドキサン (シクロフォスファミド) 5-FU (fluorouracil)
8	ナベルピン (ビノレルピン)
9	ジェムザール (ジェムシタビン)
10	ハラヴェン (エリブリン)
11	ハーセプチン (トラスツマブ)
12	ハーセプチン (トラスツマブ) パージェタ (ペルスツズマブ)
13	T-DM1 (カドサイラ)

10) カンファランス症例

術前カンファランス	250件
治療カンファランス	400件
術後病理カンファランス	250件

4. その他・来年度の目標等

臨床腫瘍科と共同で、外来化学療法センターの更なる拡充を図る。

既存の診療科やコメディカルとの協力をさらに進め、乳癌のチーム医療の確立を図る。

病診連携クリニカルパスを作成し、県内外の医療機関と病診連携を進める。

5) 放射線療法症例・数 (入院)

乳癌 8件 (入院)
220件 (外来)

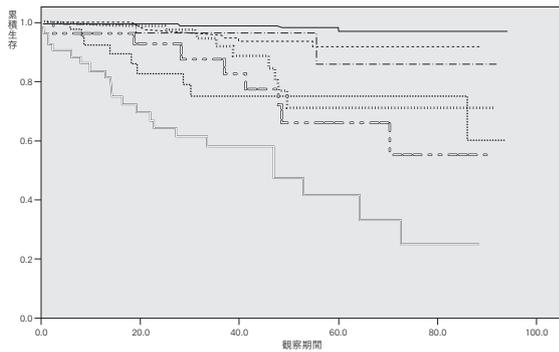
6) その他の治療症例・数 (外来)

乳癌に対するホルモン療法：1500件

7) クリニカルインディケータ

(1) 悪性腫瘍の疾患別・臨床進行期別治療成績

7-1 乳癌



stage 0 (--- : n=53)	5年生存率 85.8%
stage I (..... : n=400)	5年生存率 98.4%
stage II A (— : n=251)	5年生存率 92.0%
stage II B (..... : n=108)	5年生存率 71.0%
stage III A (← : n=31)	5年生存率 66.1%
stage III B (..... : n=41)	5年生存率 75.1%
stage IV (— : n=57)	5年生存率 41.7%

8) 死亡症例

入院死亡数： 11人
手術死亡数： 0人
剖検数： 0件 (剖検率 0%)

9) 主な処置・検査

超音波検査	2500件
マンモグラフィ	3000件
マンモトーム生検	120件
コアバイオプシ	250件